

第 22 回歴史文化をめぐる地域連携協議会

地域歴史遺産を取り巻く多様な取り組み －文化財保存活用地域計画を足がかりにして－

神戸大学大学院人文学研究科地域連携センターでは、2002 年の創設以来、地域の歴史文化の保全・活用に関わる様々な活動を展開してきました。地域には古文書をはじめ、民具、建造物、遺跡、民俗行事、人々の記憶など、地域の歴史を知るための膨大な史資料が残されています。私たちはこれまで、日々の活動や地域連携協議会などを通して、これらを保全・活用、そして継承していくためには、大学の研究者や郷土史研究者に限らず、地域内外の多様な人々が関わっていくことが必要であること、そうした関わりの中で地域歴史遺産が生まれてくるということを提唱してきました。

2019 年 4 月、文化財保護法が改正されました。「文化財をまちづくりに活かしつつ、地域社会総がかりで、その継承に取り組んでいく」（「文化財保護法及び地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の概要」より）ことを目指した法改正を受けて、近年、各都道府県で「文化財保存活用大綱」が、各市町村で「文化財保存活用地域計画」の策定が進められています。これらを策定するために設置される協議会には、文化財に関わる専門家に限らず、各自治体のまちづくりや観光、防災などの関係部局をはじめ、商工会や文化財所有者などの参画が求められています。地域の歴史文化の保全と活用は新たなフェーズを迎えており、今後、地域の歴史文化への関わり方は、より多様性を増していくと考えられます。

多様な人々が地域の歴史文化に関わることは、無論歓迎すべきことであり、様々な立場からの関わりを通して、新たな価値が見いだされたり、新しい活用の取り組みが生まれることもあるでしょう。とはいえ、近年の急激に進む文化財の活用推進の流れの中で、保存とのバランスを考えつつ、かつ「地域総がかりでその継承に取り組んでいく」ためには、丁寧な議論を重ねていくことも重要です。

2023 年 5 月以降、コロナ禍による人々の移動や活動の制限も緩和され、文化財の利活用に関する動き、そして多様な人々との関わりは、ますます活発化していくことが予想されます。今回の協議会ではこうした状況を受けて、「地域歴史遺産を取り巻く多様な取り組み」をテーマとしました。町内の観光振興が進む中で地域の歴史文化の保全・活用を目指して地域計画を作成した福崎町の事例、地域計画の策定にあたって一般市民からボランティアを募り文化財の悉皆調査を行った小野市の事例、そして保存と活用の境界を見極めながら多様な人々を巻き込む事業を展開している加西市観光課の事例を取り上げ、現状と課題を共有するとともに、今後の発展に向けて議論を重ねていきたいと思えます。多数のご参加をお待ちしております。

開催概要

日時：2024年1月21日（日）13:00～17:00

会場：神戸大学瀧川記念学術交流会館

主催：神戸大学大学院人文学研究科、同地域連携センター

共催：兵庫県教育委員会(予定)、人間文化研究機構ネットワーク型基幹研究プロジェクト
「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」、科学研究費特別推進
研究「地域歴史資料学を機軸とした災害列島における地域存続のための地域歴史文
化の創成」（研究代表者：奥村弘）研究グループ

プログラム

13:00-13:05 事務連絡

13:05-13:15 開会挨拶 長坂一郎（神戸大学大学院人文学研究科長）

13:15-13:25 主催者挨拶 奥村弘（神戸大学理事・副学長）

13:25-13:45 問題提起 井上舞（神戸大学大学院人文学研究科）

13:45-14:15 報告①「文化財保存活用地域計画の作成－福崎町の現状と取組－」
長谷川幸子（福崎町教育委員会）

14:15-14:30 休憩

14:30-15:00 報告②「”三方よし”の文化財調査の試み」
山本原也（小野市好古館）

15:00-15:30 報告③「「0 かけ算」を「かけ合わせ」で1に
－かけ合わせで増やす文化遺産関係人口－」
萩原康仁（加西市地域部観光課）

15:30-16:00 休憩・交流会

15:50-16:55 総合討論

閉会挨拶 市澤哲（神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター長）